



田園風景の中、神々ゆかりの地を行く
明和町・松阪市

両機殿神社付近

明和町と松阪市の境界近くにある神服織機殿神社(下機殿)と神麻続機殿神社(上機殿)の付近は、広々と続く田園風景の中に、神社や集落が点在します。今は、本居宣長記念館長の吉田悦之さんのご案内で、明和町にある明和町コミュニティバス「イオンモール明和」バス停をスタートし、両機殿付近をぐるりと回って、バス停に戻るコースをめぐります。「この辺りは、櫛田川と祓川の三角州に当たる地形で、治水の苦難の歴史があります。また、古代には、延喜式に載るいわゆる「式内社」が多数存在しました。そんな神さびた面影を追つて歩いていただけないと良いと思います」と吉田さん。のどかな田畠の間を、お宮から次のお宮へ、ゆつたりと歩きます。

取材・文：堀口裕世

明和町と松阪市の境界近く

明和町の西端にある明和町コミュニティバス「イオンモール明和」バス停からスタート。敷地の南側にある歩行者用の小さな出入口から裏の道に出て、松阪市に入っています。今回歩く道の多くは農道で、通行量は多くありませんが、歩道はなく自動車も通りますので注意して歩いてください。

田園風景の中にこんもりと丸く茂る大きな杜があるのは、伊勢神宮の所管社・神服織機殿神社(下機殿)。まずはこの杜に向かって歩き始めます。この杜



歩行者用の出入り口から外へ



福井文右衛門の石碑



神服織機殿神社の鳥居



鳥居前から南へ、道はまっすぐに続く

の外側、北東の角にあるのが福井文右衛門石碑です。「文右衛門は江戸初期に名張藤堂家から遣わされたこの辺りの代官です。神域を侵さないように迂回して水路がつくられていたため、この付近では稻作が難しかったのを見かね、一夜で神域を通る水路を建設し、その後切腹して責任を取ったといわれています。地元の恩人ですが、墓所は名張市にあるようです」と吉田さん。豊かに広がる田園風景はこの人のおかげなのだと感謝

する絹の御料を織る神社です。毎年5月と10月のお祭りの前には、今も神様にお供えする和妙(絹布)が地元の人々によつて織られています」。

下機殿の鳥居の前から、水田の中をまっすぐに続く道を、前方に見える保津町の集落に向かって歩きます。家並みの中心付近を通る道を進んで行くと天香山神社の前に出ます。「ここも式内社の一つです。延喜式には、この櫛田川と祓川の間に15くらいの神社が載せられています。稀に見るたくさんの神々



本居宣長記念館長の吉田悦之(よしゆき)さん。「歴史には謎が多いのですが、その地を歩くと感じるものや発見があります。楽しんで歩いてください」。

行程図 所要時間／約3時間30分 ※所要時間は、およその目安です。

START





藤八翁頌徳碑



藤八の遺品等が見つかった場所



魚見神社



魚見橋



櫛田川の風景



室垣不知元神社

のために人柱となつた藤八の事を伝えて
います。昭和になつて、堤防改修の際に
藤八の遺骨や遺品の鉢などが発見され
たそうです」。この道を少し進んだ左側
には、その場所を示す木の柱が建てられ
ています。昔はこの付近に堤防があつた
のでしょう。治水のために命を落とした
悲しい物語に思いを馳せ、さらに進み、
魚見町に入ったところを左へ行きます。

倭姫命が名付けた社

魚見町の一角に杜の茂る魚見神社

あります。「昔、倭姫命が船で櫛田川を

下つて、こうられたとき、魚が自然に集まつて

船に飛び乗つたので、姫が喜ばれ魚見社

をお定めになったと『倭姫命世記』にあり

ます。魚見神社ももちろん式内社です。

ここから、スタート地点に戻る道のりに

なりますが、長く歩きましたので、休憩

を兼ねて、魚見橋の中央辺りまで出て

魚影を探してみるのも良いかもしませ

んね」。魚見橋は長い橋で、脇に歩行者

用の細い橋があります。中央に向かって

少し歩くと視界が開け、川の風景が樂
しめます。倭姫命の氣分で川景色を樂
しんだら、魚見町を離れ、県道706号
を新開町の方向に進みましょう。

新開町の家並みの中を右へ折れ、最後
の立ち寄り先、室垣不知元神社へ。一度
大国玉神社に合祀され、また戻つたとい
うことで、やはり古い由緒を持つ神社で
す。ここを出れば、もうゴールが見えて
います。神々のやどる古い時代のおも
かげと、水と闘つた人々の物語が交差す
る風景の中を出発点に戻りましょう。

問 松阪市観光協会
TEL 0598-123-7771

が鎮座する場所だつたようです。多くの神社が洪水や合祀などによって変化
していますが、この辺りの神社の多くが
古い由緒を持つ式内社なのです。この
隣にあるお寺は光安寺。ここの中薬師堂
には、かつて福井文右衛門自刃の刀が収
められていたということです」。すぐ近
くに名張藤堂家の代官所の跡地もあり
ます。

大国玉神社から上機殿へ

続いて、また田園の中を右手前方の六
根町に向かいます。この集落の西側に
あるのは大国玉神社です。「こゝも式内
神社(上機殿)に向かいましょう」。

また広い田園風景の中を、上機殿の杜
をめざして歩きます。「上機殿神社は、
荒妙(あらたま)の麻布(まふ)を織る神社です。下機殿と
同じく、神宮の神御衣祭の前には地元の
方たちが誇りをもつて布を奉織されて
います。江戸時代この付近は木綿の產
地であり、古くから織物が盛んだったと
いうことです。二つの機殿神社は、戦国

時代に神宮の奉織が途絶えたことなど
方たちが誇りをもつて布を奉織されて
います。江戸時代この付近は木綿の產
地であり、古くから織物が盛んだったと
いうことです。二つの機殿神社は、戦国

がありました。藤堂藩によつて再興され、江戸時代には織物の神様として遠方
からも参詣者を集めたようです。静か
な機殿神社にも、長い歴史の中では搖
動く時代の波があつたと、時の流れの重
みを感じながら、上機殿神社の前から西
方向に向かい、県道706号に出て、北
の方向に進みます。

人柱の悲しい伝説

少し進むと、右に分かれていく道があ
り、その分岐点近くに藤八翁頌徳碑があ
ります。「櫛田川は昔は暴れ川だったの
です。文政5(1822)年、堤防工事



天香山神社



光安寺。左の小さな建物が薬師堂



大国玉神社



大福寺山門



室垣不知元神社